

令和3年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

児童・思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究

総括研究報告書

研究代表者：五十嵐 隆（国立成育医療研究センター）

研究分担者：奥野正景（三国丘病院 三国丘こころのクリニック）

西牧謙吾（国立障害者リハビリテーションセンター病院）

小倉加恵子（国立成育医療研究センターこころの診療部）

小枝達也（国立成育医療研究センターこころの診療部）

研究要旨

全国の児童思春期精神医療を実施している基幹病院での①カルテ調査、全国の児童思春期精神医療を実施している担当医へのアンケート調査、児童思春期精神医療関連の学会や団体での研修実態の調査を通して、児童青年期の精神疾患の診療実態と各学会等での研修の実態を明らかにすることを目的とした。

結果としてカルテ調査では1003症例を半年ごとの後ろ向きコホート調査として、診療情報を収集した。初診時の年齢は11歳（±4.4歳）で、10-14歳がもっとも多い年齢層であった。男女比は6:4であった。診断名では、F8 心理的発達の障害がもっとも多く、次いでF4 神経症性、ストレス関連障害および身体表現性障害や、F9 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害が多かった。これら3つの疾患群で患者総数の83%に達していた。平均の続期間は1.4年で、対象者の47%が2年以上治療継続し、27%の対象者が5年以上治療継続していた。アンケート調査では、881件の回答があり、737件（86%）が児童思春期精神疾患の診療を行っていた。それらのうちR468 不登校、F7 知的障害、F8 心理的発達の障害、F9 小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害は約9割の施設で診療されていた。全疾患群で未就学児は小児科系標榜科でより高頻度に診療されており、高校生以上20歳未満で精神科系標榜科でより高頻度に診療されるという傾向が見られた。2年以上診療を継続するケースが多かったのは、F2、F7、F8、F9であった。研修の実態調査では、精神科系も小児科系も心理学系も、各分野における疾患の研修以外に予防や家族支援、福祉・教育・保健分野との連携に関する研修が実施されていた。

研究協力者

岡田 俊（国立精神神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部）

飯田順三（奈良県立医科大学医学部看護学科）

秋山千枝子（あきやま子どもクリニック）

竹原健二（国立成育医療研究センター 政策科学研究部）

加藤承彦（国立成育医療研究センター社会医学研究部）

A. 研究目的

本研究では、思春期における精神疾患の診療実態を明らかにすること、並びに関係諸機関との連携の実情を明らかにすることを目的とする。

精神疾患とする範囲は ICD-10 の F コードならびに不登校（R468）、被虐待関連（T74）、など、いわゆる子どもの心の診療とされる範囲を広く含めることとする。

また、各学会や団体で行われている子どもの心の診療に関する研修の実態についても調査し、診療の実態と必要な研修の在り方についても検討する。

今年度は、全国の児童思春期精神医療を実施している基幹病院での①カルテ調査、全国の児童思春期精神医療を実施している担当医へのアンケート調査、児童思春期精神医療関連の学会や団体での研修実態の調査を通して、児童青年期の精神疾患の診療実態と各学会等での研修の実態を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1) カルテ調査は、子どもの心の診療ネットワーク事業参加自治体（21 自治体）の拠点施設（29 施設）と日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）加盟施設（36 施設）、全国児童青年精神科医療施設協議会会員施設（35 施設）に協力を依頼して、初診の 2015 年 4 月から 2020 年 3 月までの 5 年間で半年ごとの計 10 回において、受診の有無や他機関連携の実施状況について後ろ向きコホート調査を行った。

2) アンケート調査は、児童思春期精神疾

患や発達障害の診療実態に関する施設調査で、初診患者の対象疾患、初診時年齢と性別、診療継続の状況、福祉機関や保健機関、教育機関との連携の状況を調べた。日本児童青年精神医学会、全国児童青年精神科医療施設協議会、日本児童青年精神科・診療所連絡協議会、日本小児神経学会、全国肢体不自由児施設運営協議会、日本小児心身医学会、日本小児科医会、一般社団法人子どもの心専門医機構に協力を依頼し、その会員が所属する医療機関に対してなるべく重複が発生しないように配慮した上で、計 3294 の調査票を配布した。

3) 研修実態調査は、日本精神神経学会、日本児童青年精神医学会、日本思春期青年精神医学会、日本精神科病院協会、全国児童青年精神科医療施設協議会、日本児童青年精神科・診療所連絡協議会、日本小児精神神経学会、日本小児科学会、日本小児神経学会、日本小児心身医学会、日本小児科医会、日本公認心理士協会、日本臨床心理士会に対して、子どものこころの診療と捉えている範疇、会員数、資格制度の有無、研修会の内容などを尋ねるアンケート調査と学術集会や研修会の抄録データを収集した。

（倫理面への配慮）

カルテ調査を実施するにあたって、国立成育医療研究センター倫理委員会の承認を得て実施した。

アンケート調査並びに研究に関する調査では、倫理的に問題となる事項がないと判

断した。

C. 研究結果

1) カルテ調査：1003 症例を半年ごとの後ろ向きコホート調査として、診療情報を収集した。初診時の年齢は 11 歳 (±4.4 歳) で、10-14 歳がもっとも多い年齢層であった。男女比は 6 : 4 であった。診断名では、F8 心理的発達の障害がもっとも多く、次いで F4 神経症性、ストレス関連障害および身体表現性障害や、F9 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害が多かった。これら 3 つの疾患群で患者総数の 83% に達していた。平均の継続期間は 1.4 年で、対象者の 47% が 2 年以上治療継続し、27% の対象者が 5 年以上治療継続していた。

2) アンケート調査：881 件の回答があり、737 件 (86%) が児童思春期精神疾患の診療を行っていた。それらのうち R468 不登校、F7 知的障害、F8 心理的発達の障害、F9 小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害は約 9 割の施設で診療されていた。精神科系標榜の診療科では小児科系と比較し、いずれの疾患群も診療している割合が高かった。全疾患群で未就学児は小児科系標榜科でより高頻度に診療されており、高校生以上 20 歳未満で精神科系標榜科でより高頻度に診療されるという傾向が見られた。2 年以上診療を継続するケースが多かったのは、F2、F7、F8、F9 であった。

3) 研修実態の調査：精神科系の学会等では、子どものこころの診療に専門的と考えられる団体では、その対象を、児童期におこ

りうる精神疾患というだけでなく、予防をも含むより広い病態像、状態像とし、また、養育者や地域、子どもの成長や幸せなどの視点をも含み、子どもに関わる多職種が関与し、多機関との連携が必要であることを示した。小児科系では、全ての専門団体において構成員数の増加が認められ、資格基準が明確になっていた。子どもの心の診療の範疇として 2005 年度は一部の児童思春期精神疾患を対象としていたが、2021 年度にはこころの発達から児童思春期精神疾患までの幅広い対象となっていた。さらに、本人の診療だけでなく、家族支援、母子保健・児童福祉領域や保育・教育など他領域との連携もこころの診療の一部としていた。心理学系では、資格認定制度が整っていて、数千人から 2 万人を超える有資格者を輩出している団体がある。更新条件も整っていると思われる。研修内容は、医療という視点で幅広く捉えているが、障害に関するテーマが多かった。

E. 結論

児童青年期精神疾患の診療の実態調査と研修に関する実態調査を実施した。全国規模の診療実態の把握は本邦では初めてである。研修に関しても 2005 年度の調査を基に 10 数年間の変化に着目して比較して検討することができた。

F. 健康危険情報

とくになし

G. 研究発表

1. 論文発表

Frontier Psychiatry, 12, Trajectories of healthcare utilization among children and adolescents with autism spectrum disorder and/or attention-deficit/hyperactivity disorder in Japan. 2022, Jan, Aoi A, et al.

2. 学会発表

1) 奥野正景：日本発達障害学会 第 56 回研究大会 学会企画シンポジウム 地域の発達障害支援における多職種連携シリーズ第 4 弾「多職種連携支援の観点から今後の成育医療の役割を問うー医療機関側から見た課題ー」 2021.10.30 WEB

2) 桑村久実, 奥野正景, 岩橋多加寿：日本小児心身医学会 思春期の児童精神科診療所受診者の背景 不登校群と登校群の比較から 2021.9.25 WEB 開催

3) 岩橋多加寿, 奥野正景, 桑村 久実, 岡田 恵里, 村嶋隼人：第 62 回日本児童青年精神医学会総会 児童精神科外来における TF-CBT (トラウマフォーカスト認知行動療法) 2021.11.13 WEB 開催

4) 小倉加恵子, 小枝達也, 秋山千枝子. 子どもの心の診療を行う小児科医療機関における連携状況の類型化からみえた課題. 第 68 回日本小児保健協会学術集会. 2021.6.18~20. Web 開催.

5) 小枝達也. 日本における神経発達症の医療 (教育講演). 自閉スペクトラム症国際シンポジウム 2022.2.27 Web 開催.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

2021 年 11 月に厚生労働省中央社会保険医療協議会第 494 回総会に、2022 年度診療報酬改定の資料として中間結果を提供した。